

令和 3 年度 アユ人工由来種苗の放流結果について

1 説明

- ・ 太田川再生方針に基づく取組の一環として、アユの天然遡上を増やすため、広島市及び広島県のアユ種苗生産業務の過程で、計画数量以上に発生したアユ種苗（以下「人工由来種苗」という）を太田川の河口域へ放流している。
- ・ これまでは、広島湾に近い観音マリーナ地先や旭橋周辺で放流を進めてきたが、令和 2 年度第 2 回太田川産アユ・シジミ資源再生懇談会で有識者から、より放流効果を上げることを目的により上流域（汽水域）での放流を検討してはどうかという提案があった。
- ・ このため、放流地点の再検討を行った上で、人工由来種苗の放流を実施したので報告する。

2 放流結果

- ・ 放流結果は、表 1 のとおり。なお、広島市生産分の人工由来種苗は、毎年 12 月の選別作業後にも放流を実施してきたが、今年度は、種苗生産の都合から 2 月のみの放流となった。
- ・ 人工由来種苗の重量等を考慮し、鱗形成後の市生産分（平均重量 0.6 g～1.3 g）については、上流域の三滝橋周辺、鱗形成前の県生産分（平均重量 0.2 g）については、下流域の旭橋周辺で放流した。

表 1：人工由来種苗放流結果

区分	生産場所	放流日	放流地点 (裏面：図 1)	放流数量 (1尾あたりの平均重量)
市	市水産振興センター	2/8 日 (火)	三滝橋周辺 右岸	15.8 万尾 (0.61 g) 3.9 万尾 (1.33 g)
県	県栽培漁業協会	2/9 日 (水)	旭橋周辺 左岸	76.9 万尾 (0.23 g)
放流総数				96.6 万尾



3 放流時の環境変化（水温、塩分濃度、潮位などの変化）

- ・ 測定結果は、表 2、表 3 のとおり。

表 2：市生産分の人工由来種苗の放流時（令和 4 年 2 月 8 日）

	区分	水温 塩分濃度	測定日時 (測定時の潮位)	潮位
1	市水産振興センター 管理水槽	11℃ 33.0PSU	2/8 11時00分 (—)	—
2	運搬トラックの水槽	11.8℃ 14.8PSU	2/8 11時45分 (—)	—
3	三滝橋周辺	9.4℃ 20.5PSU	2/8 11時45分 (221 cm)	小潮 満潮 14時00分 271 cm

表 3：県生産分の人工由来種苗の放流時（令和 4 年 2 月 9 日）

	区分	水温 塩分濃度	測定日時 (測定時の潮位)	潮位
1	県栽培漁業協会 管理水槽	11.4℃ 33.0PSU	2/9 9時00分 (—)	—
2	運搬トラックの水槽	12.1℃ 13.8PSU	2/9 12時40分 (—)	—
3	旭橋周辺	11.9℃ 27.4PSU	2/9 12時40分 (222 cm)	小潮 満潮 14時34分 245 cm



図1：放流地点等

